

単漢字和語動詞と中国語同形漢字における漢字類似性の認識 —中国語を母語とする日本語学習者を対象に—

孟 盈

1. はじめに

文字は言語を書き表す記号であり、ある言語の文字が別の言語で借用されることは珍しくない。漢字は中国から日本に伝来し、漢文の中で読まれるのみならず、日本語（当初は主に和語）を表記するようにもなった（沖森他、2017: 15）。そのため、日本語の和語の多くも漢字で表記され、その一部は中国語の同形漢字と類似した意味を持っている。よって、中国語を母語とする日本語学習者（以下、CJL）は漢字を手掛かりに漢字表記和語を学習している可能性が高い（孟 2017）。一方、現代中国語で言語の使用単位となる語は、日本に漢字が伝来した当時の古代中国語の単音節語¹とは違い、二音節語²が多数を占めている。現代中国語においては古代中国語の単漢字語は二字語の造語成分の形態素になり、語の一部として意味を表すが、字義は曖昧になっている傾向がある（沈 2018）。CJL が単漢字で表記される和語学習に中国語の漢字知識を援用するには、母語で漢字の意味をはっきり把握していることが前提となる。CJL ではっきりと理解できていない場合、母語の漢字知識が単漢字で表記される和語の習得に繋がらない可能性が考えられる。そこで、本稿は単漢字で表記される和語動詞を取り上げ、日中漢字類似性が CJL の単漢字和語動詞の習得に影響を及ぼす可能性を探り、さらに中国語漢字が語か形態素かによって CJL の日中漢字類似性への認識度に違いがあるかを明らかにする。

2. 単漢字表記語彙における中国語の影響に関する先行研究

中国語知識の影響に関する語彙習得研究は、対照研究の成果を踏まえて行われてきたため、二字漢字語彙に関するものが多い。しかし、二字漢字語彙の意味推測研究と二字漢字語彙の意味処理の実験において、単漢字による意味推測や意味処理への影響が見られている。陳（2009）は、日本語にしかない語（N 語）である「既婚」について、「既」（すでに起こっていること）と「婚」（夫婦になる）から、CJL が「すでに結婚している」という意味を推測することは易しい」（p. 109）と述べており、CJL が漢字知識を手かがりに、日本語の語を単漢字に分解してから理解していることが分かる。また、小森（2010）では、漢字 1 字を共有している N 語の意味処理において漢字 1 字による干渉が観察され、CJL は二字漢字語彙を処理する際、単語レベルだけでなく、形態素である単漢字の意味的表象も活性化している可能性があると指摘されている。

¹ 北京大学中国語言文学系現代漢語教研室（2004）によると、中国語の漢字一文字は一音節と対応するため、中国語学では、一文字からなる語を「単音節語」と呼ぶ。

² 中国語学では、二字からなる語を「二音節語」と呼ぶ（北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 2004）。

CJL の単漢字和語動詞における中国語の影響について言及している研究として、小森他 (2012)、森山 (2015) が挙げられる。小森他 (2012) では、CJL を対象に日中同形同義語 (「整理する」) と一字共通の和語動詞 (「整える」) の共起語知識について調査を行っている。その結果、日中同形同義語と一字共通する和語に類似する共起関係を持っていると判断する傾向があったため、CJL は単漢字表記和語においても中国語の漢字知識を用いていることが指摘されている。また、森山 (2015) は CJL による和語動詞の産出を調査している。産出の誤答の原因をフォローアップインタビューで分析したところ、CJL が和語動詞を産出する際、文脈に合う中国語を連想し、その漢字表記の一部を和語動詞に当てはめることを挙げている。

上記の研究では、単漢字和語動詞の習得に中国語の漢字知識が影響していることが言及されているが、どのような中国語の漢字知識が単漢字和語動詞の習得に影響をもたらすかについては、まだ明らかになっていない。中国語では基本的に、漢字は語と形態素に分類される。語は言語の使用単位である一方、形態素は意味を表す最小単位である。意味を表せるという点に関しては語と形態素は同様であるが、単独で使用できるのは語のみである。この点は、中国語母語話者の字義の理解へ影響すると考えられる。CJL は、語彙全体の意味を理解できても、形態素の漢字の意味まではっきりと理解できていない可能性がある。その場合、中国語の漢字知識が単漢字和語動詞の習得に繋がらないと考えられる。さらに、孟 (2017) では、言語の形式や意味が類似していても、学習者が気づきやすいものと気づきにくいものがあると述べている。中国語と同形同義関係を持つ単漢字和語であっても、CJL が日中漢字の意味的類似性を認識できていないと、中国語の漢字知識による影響は起らない。そのため、本稿において、CJL は単漢字表記の和語動詞に、中国語漢字との意味類似性を認識するかどうか、また中国語漢字が語か形態素かによって、認識する意味類似性に違いがあるかどうかを検証する。

3. 研究概要

3.1 調査協力者

2019 年 9 月に、中国東北地域の大学で日本語を専攻とする学部生 72 名に対して、調査を実施した。調査協力者は 2 年生 51 名、3 年生 21 名であった。全員日本への留学経験はなかった。また、中国では民族によっては母語が必ずしも中国語であるわけではないため、調査実施前に協力者全員の言語背景を把握し、中国語を母語とする日本語学習者のみに調査を依頼した。

3.2 調査対象語

単漢字和語動詞において、CJL はその単漢字表記に対して、日中漢字の意味類似性を認識するかどうかを検討するため、同漢字表記の日本語と中国語の意味関係を操作し、同形同義と同形異義に分けた。また、中国語における漢字の性質による単漢字和

語動詞に対する認識の違いを確認するため、中国語における語か形態素によって、同形同義関係を持つ単漢字を分類した。対象語の選定手順は以下の通りである。

3.2.1 日中同形語の選出

協力者が1年生の時に使用する日本語教科書（『新经典日本語基本教程第一册』『新经典日本語基本教程第二册』『新经典日本語听力教程第一册』『新经典日本語听力教程第二册』）の新出単語表から単漢字で表記される和語動詞を抽出した。つまり、本稿の調査用語彙はすべて学習者の既習語彙と考えられる。ただし、日本語の国字で表記される和語動詞を削除した（例えば、込む）。なお、本稿では、日中漢字表記の字源、すなわち、康熙字典体（旧体字）が同じであれば、中国語の簡体字と日本語の漢字の字体による違いがあっても、同漢字表記と見なした。

3.2.2 日中同形語における意味判定

日中同形語の意味関係について、複数の辞書による判定を行い、結果が一致する場合のみ、調査対象語として扱う。

日中語彙の対照研究においては文化庁（1978）がよく知られている。文化庁（1978）は日本語の二字漢語について、中国語に同形の二字漢字語があるか否かによって分類し、さらに、日中同形語を意味関係によって同形同義語（Same、S語）、同形異義語（Different、D語）、同形類義語（Overlap、O語）、日本語にしかない語（Nothing、N語）に分類した。本稿の調査対象において、和語動詞もそれと同形の中国語の漢字も多義的なものが多いため、文化庁（1978）の分類方法に従うと、O語が多数を占めている。しかし、学習者の日本語語彙知識から考えると、和語動詞の語義を全て知っているわけではなく、教科書に記載した語義に限られる可能性が高い。そこで、本稿は文化庁（1978）の、語彙全体の意味関係を比較するという分類方法ではなく、日中語彙において、特定の意味が共有しているかどうかによって判定する。すなわち、教科書に記載される和語動詞の意味に限定し、中国語の同形漢字に同じ意味があるかどうかという判定基準で意味関係を判定する。

辞書による意味判定は、日中辞書、中日辞書、日本の国語辞典、中国語辞典を用いて、日本語と中国語の双方で行った。判定にあたっては以下の辞書を参考にした。

日中辞典：『講談社 日中辞典』（初版）、『小学館 日中辞典』（第3版）

中日辞典：『講談社 中日辞典』（第3版）、『小学館 中日辞典』（第2版）

中国語辞典：『現代汉语词典』（第7版）

日本の国語辞典：『岩波国語辞典』（第7版）

中国語の同形漢字に、教科書に載っている単漢字和語動詞の意味と同じ語積があれば、日中漢字表記に同形同義関係があると判定した。教科書に載っている単漢字和語動詞の意味と異なる場合、同形異義関係と判定した。しかし、辞書の語積または字積

にゆれがある場合、調査対象語からは除いた。例えば、「探す」と同形漢字<探>³の意味関係を判定する際、中国語<探>の意味を『講談社 日中辞典』、『小学館 日中辞典』、『現代汉语词典』で調べた。『現代汉语词典』において、<探>は、<试图发现（隠蔽的事物或情况）>、すなわち、（隠れている物事または状況を）探り求める（筆者訳）という意味である。『講談社 日中辞典』では、「探り求める. 探り調べる.」とあり、『現代汉语词典』と同様であった。一方、『小学館 日中辞典』では、「探す. 尋ねる。」という字釈であった。しかし、「探り求める」と「探す」は意味上に共通の部分はあるものの、具体的な用法とコロケーションが異なる。このような、辞書によって字釈にゆれがある単語は本調査の調査対象語から除いた。

3.2.3 中国語における語と形態素の判定

中国語漢字が語か形態素かによって、CJL の持つ日中漢字の意味的類似性についての認識に違いがあるか否かを検討するため、以下に述べた辞書と資料の記述を照らし合わせ、インフォーマントの判断に従って語か形態素かを判定する。インフォーマントは3名の中国語教育に携わる中国語教師であり、全員中国語母語話者である。なお、語と形態素の判定は同義語のみを対象とし、同形異義と判定した語は中国語における語と形態素の判定は行わない。既述の通り、日中同形漢字で意味が類似する場合、その漢字が中国語で語か形態素かによって、CJL が認識する意味的類似性の度合いが異なる可能性がある。日中同形異義語の場合、そもそも意味が異なるため、中国語での漢字が語か形態素かの違いは、CJL の意味的類似性の認識に影響しないと考えられる。

中国語においては、連綿字⁴を除き、基本的には漢字一文字は語（自由形態素、free morpheme）と拘束形態素（bound morpheme）に対応する。中国語学において、自由形態素か拘束形態素かを判断する基準は「単独に話せるか否か」あるいは「単独に用いるか否か」と一般的に認識されているが、具体的な判定の手続きが示されておらず、応用可能性に欠けている。そのため、本稿は、辞書と資料を用いる判定を行い、不一致の場合、インフォーマントの判断も追加で行った。また、辞書と資料の記述による判定は以下を使用して行った。いずれにも漢字が語か形態素かの情報が明記されている。

『現代汉语词典』（第7版）

『講談社 中日辞典』（第3版）

『汉外词汇教学新探索：汉语词汇体系分析&意义对应字词表・同义类聚词语表』

³ 本研究において、日本語漢字と中国語漢字の混同を避けるために、日本語には「」、中国語には「< >」をつける。

⁴ 北京大学中国語语言文学系現代漢語教研室（2004）によると、中国語学においては、<葡匐>のような一音節で独立して使用できず、二つ以上の音節によって構成され、ひとまとまりで意味を表す語彙を連綿語という。そのような語に使用する漢字を連綿字と呼ぶ。

上記の資料による記述が一致していない場合、インフォーマント判定も行い、3名中、2名以上が一致した判定結果に従った。インフォーマントの判断は、董(2004)の判別基準に従い、対象形態素(漢字)が典型的な構文において、単独に現れるかどうかで判断する。単独に現れた場合、自由形態素すなわち語であり、単独に現れない場合は拘束形態素と判定する。本稿の研究対象は単漢字和語動詞であるため、日本語と同義の中国語の漢字は、中国語においても動詞性⁵を持つ。動詞の典型的な構文特徴は、単独に述語として使用されること、<了><着><过>⁶が付くことによって、述語として機能することである。例えば、「包む」に対応する中国語の漢字<包>は、上記の構文特徴を満たすため、自由形態素、すなわち語として判定した。

- (1) 我包礼物。(私はプレゼントを包む。)
- (2) 我包了/着/过礼物。(私はプレゼントを包んだ。/でいる。/だことがある。)

一方、拘束形態素は動詞性を持つにもかかわらず、単独で動詞の構文位置に挿入されない。例えば、「褒める」に対応する中国語の漢字<褒>は<赞扬; 夸奖>⁷(褒める)の意味であり、動詞性を持っているが、上記の<包>のように動詞として構文にすることはできない。つまり、<褒>は動詞性を持つ拘束形態素と判断できる。

- (3) ?老师褒我。
- (4) ?老师褒了/着/过我。

このように、調査対象語を同形同義、同形異義に分類し、同形同義関係を32語、同形異義関係を13語抽出した。さらに、同形同義関係である単漢字和語動詞を、中国語の語か形態素かによってそれぞれ16語に分類した。調査対象語を3グループに分け、

⁵ 本稿では、以下の手順で、漢字の動詞性について確認した。漢字が語の場合、『現代汉语词典』と『講談社 中日辞典』において品詞が明示されており、漢字の動詞性が上記の辞書の記載によって判断できる。例えば、「別」は上記の辞書において、<分离>（「別れる」）という語義に動詞（動）と表示されているため、動詞性を持つと判断できる。一方、「濡れる」の漢字表記<濡>のように、形態素とされている場合、辞書では、品詞表示はないため、董(2004)に倣い、以下の二つの基準に応じて判断する。まず、語における形態素の位置で判断する。Packard(2000)によると、中国語において、動詞の中心(head)は語の左に置かれ、すなわち、一般的に動詞において、語の左側にある形態素が動詞性を持つ。<濡>を例に挙げると、<濡湿>という動詞において、<濡>は語の左側にあるため、動詞性を持つと判断される。また、もう一つの基準は、古代中国語における使用状況である。前述のように、現代中国語における形態素は古代中国語において語として使用されていたものが多いため、古代中国語での使用状況は形態素性の判断に参考である。例えば、『庄子・大宗师』において、<濡>は<相濡以沫>（「(水枯れの際に魚は) お互いを唾で濡らし合う」）という文で動詞として使われているため、現代中国語で同じ語義を表す際も、動詞性を持つ形態素だと考えられる。

⁶ 動詞の典型的構文を<了><着><过>が付くとしているが、全ての動詞にあてはまるわけではない。例外として、判断・説明を表す<是>、<属>のような動詞が挙げられる。

⁷ 『現代汉语词典』(第7版)による字義の記述である。

『日本語能力試験出題基準』（2002年改訂版）における配当級も表1に示した。

表1 調査対象語

同形同義	語	選ぶ (3)、送る (3)、折る (3)、数える (2)、比べる (3)、滑る (2)、倒れる (3)、建てる (3)、包む (3)、治る (3)、投げる (3)、慣れる (3)、逃げる (3)、運ぶ (3)、守る (2)、破れる (2)
	形態素	集める (3)、植える (3)、遅れる (3)、怒る (3)、飼う (2)、飾る (3)、叱る (2)、育てる (3)、鳴る (3)、濡れる (3)、拾う (3)、増える (3)、踏む (3)、振る (2)、褒める (3)、別れる (3)
同形異義		謝る (3)、覚える (3)、稼ぐ (2)、転ぶ (2)、誘う (2)、騒ぐ (3)、連れる (3)、泊まる (3)、直す (3)、回る (3)、寄る (3)、渡す (4)、割れる (3)

() 内は『日本語能力試験出題基準』の配当級

3.3 調査文

調査文は筑波ウェブコーパス⁸や日本語教育語彙表⁹の用例を参考にし、作例した。和語動詞には多義語が多いため、調査文での用法と教科書の用法を一致させるため複数の国語辞書を用いて調査文の用法を検証した。また、協力者の文理解へ支障が出ないように、難しい語彙や文法の使用を避け、簡単な語彙と文法に書き換え、漢字表記語彙にはルビをつけた。文の自然さについては日本語教育に携わる日本語母語話者3名の判断を仰いだ。さらに、文脈から意味を推測することを避けるために、短い文脈を使用した。

3.4 調査方法

3.3節で作成した単漢字和語動詞を含む短文と中国語の同形漢字をペアで提示し、4段階（1 まったく類似していない、2 類似しているが、強くない、3 比較的類似している、4 非常に類似している）で意味類似性を測る。また、学習者は全ての語彙を正しく理解しているわけではないため、間違った理解が意味類似性の判断に影響を及ぼす可能性がある。これを避けるため、類似性の質問用紙の回答後、当該の単漢字和語動詞に下線を引いて、中国語で翻訳するように求めた。調査には、時間的な制限は設けなかった。調査用紙の例は図1の通りである。

⁸ 筑波ウェブコーパスについては、<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>を参照。

⁹ 日本語教育語彙表については、<https://jreadability.net/jev/>を参照。

短句	汉语中的相同汉字	汉语中的相同汉字与画线词在意思上相似吗? 请在适当的选项上画圈。
短文	中国語での同形漢字	中国語での同形漢字は下線部の日本語単語と意味上に類似しているか。次の選択肢から最も相応しいものを一つ選んでください。
木を植えました。	植	4 非常相似; 3 比较相似; 2 有相似之处, 但并不太相似; 1 不相似

図1 調査用紙の例

4. 調査結果

日本語の理解の誤りによる意味類似性の判断への影響を避けるため、中国語の翻訳が正しい回答のみ、意味類似性の判断を有効とした。4.1 節では、CJL は日中同形語における単漢字の類似性を認識するかを検証し、4.2 節では、中国語と同形同義関係を持つ単漢字和語動詞について、中国語での語か形態素かの違いによって、CJL が認識する意味的類似性に違いがあるかどうかを確認する。

4.1 同形同義語と同形異義語における意味的類似性の認識

CJL が日中同形漢字における意味的類似性を認識されるか否かを検討するため、同形同義グループと同形異義グループについて、マン・ホイットニーU検定¹⁰を行った。その結果、同形同義グループと同形異義グループ間では、0.1%水準で有意差が見られた ($U = 140226.50, p < .001$)。すなわち、同形同義グループは同形異義グループより、CJL に認識される意味的類似性の度合いが高いことが分かった。

表2 同形同義グループと同形異義グループにおける意味的類似性の認識

同形同義 ($n = 2256$)			同形異義 ($n = 757$)		
平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
3.54	0.71	4	1.77	0.84	2

4.2 CJL における中国語の語か形態素による意味的類似性への認識の差異

中国語で語か形態素かの区分によって、CJL が認識する意味的類似性の度合いが異なるかどうかを調べるため、中国語と同形同義を持つ単漢字和語動詞において、語と形態素について、同様にマン・ホイットニーU検定を行った。検定の結果、中国語で

¹⁰ 本稿に使用するデータは順序尺度であり、正規分布に従っていないため、ノンパラメトリック検定を利用した。データの正規性について、Shapiro-Wilk 検定を行った。その結果、正規性が棄却され ($W = 0.77, p < .001$)、正規分布に従わないと判断できる。

語か形態素かの区分によって、CJL が認識する意味類似性の程度に有意差が見られた ($U = 479537.00, p < .001$)。すなわち、中国語漢字と同形同義の単漢字和語動詞について、中国語が語の場合は、形態素より、意味的類似性への認識の度合いが高いことが分かった。

表 3 同形同義語グループと同形同義形態素グループにおける意味的類似性の認識

同形同義語 ($n = 1129$)			同形同義形態素 ($n = 1127$)		
平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
3.72	0.54	4	3.35	0.81	4

5. 考察

本稿は質問用紙を用いて、CJL が単漢字和語動詞と同形中国語漢字の意味的類似性への認識を検討した。その結果、日中同形漢字の意味関係によって、CJL が認識する意味的類似性の度合いは異なることが確認できた。単漢字和語動詞が同形中国語の漢字と同義の場合、同形異義より意味的類似性への認識度が高いことが分かった。このことから、二字漢語だけでなく、単漢字に対しても、CJL は日中漢字の意味的類似性を認識できると示唆された。さらに、意味が類似している日中同形漢字において、中国語で語か形態素かの区分によって、意味的類似性に対する認識が異なることも見られた。すなわち、中国語漢字と同形同義の単漢字和語動詞について、中国語が語の場合は、形態素より、意味的類似性への認識の度合いが高かった。つまり、単漢字和語動詞と同形中国語漢字において、実際に意味が類似していても、中国語の語か形態素によって、CJL が知覚した意味的類似性の程度が異なることが示されている。CJL は形態素の意味的類似性を認識できるが、語ほど形態素の意味的類似性が高くないことが確認された。CJL は形態素の意味的類似性を認識できることは、中国語において、語における内的構造 (internal structure) がはっきりしており (董 2004)、形態素の意味は語の意味から識別されることが推察される。一方、形態素は語と同様に、意味を表せるが、単独では使用できないため、字義を確認するには、複合語など長単位で確かめる必要がある。使用上に独立性が欠けることで、日中同形同義漢字が形態素の場合、語ほど、意味的類似性が高く認識されていないことが考えられる。さらに、一部の形態素は現代中国語において、語の造語成分として使用されているうえに、形態素義が曖昧になってきているため、CJL は識字¹¹できても、形態素義まで分かるわけではない。すなわち、中国語の形態素義への理解は各形態素によって異なる可能性があ

¹¹ ここでいう「識字」は漢字を読めることと書くことを指す。沈 (2018) では、識字の意味について議論があった。「識字」は一般的に、漢字の意味が理解されていると思われがちである。しかし、一部の常用漢字が形態素になって、中国語母語話者は形態素の字音と字形、形態素を含む語義が分かっているにもかかわらず、形態素の語義まではっきり分かるわけではない。

り、日中漢字の意味的類似性への判断に影響をもたらす可能性も考えられる。表3で示した同形同義語と同形同義形態素の認識度の平均値と標準偏差の通り、形態素グループは語グループより平均値が低く、分散も大きいことが分かる。つまり、形態素において、各語彙に対する認識度にばらつきが大きい一方、語においては、各語彙に対する意味的類似性の認識度はそれほど変わらないと言える。形態素グループにおいて、どの語では意味的類似性の認識度が他の語と差異が大きいかを明らかにするため、中国語漢字と同形同義関係を持つ各単漢字和語動詞に対する意味的類似性の平均認識度を表4に示す。

表4 各同形同義語における意味的類似性の平均認識度

語		形態素	
調査対象語	平均値	調査対象語	平均値
送る	3.93	増える	3.85
数える	3.90	怒る	3.83
建てる	3.88	飾る	3.72
倒れる	3.85	集める	3.70
逃げる	3.85	遅れる	3.64
折る	3.82	叱る	3.62
滑る	3.79	育てる	3.62
破れる	3.77	植える	3.61
選ぶ	3.75	拾う	3.55
比べる	3.71	踏む	3.35
慣れる	3.66	飼う	3.32
包む	3.61	褒める	3.30
守る	3.56	鳴る	3.08
治る	3.53	別れる	2.96
投げる	3.52	濡れる	2.46
運ぶ	3.33	振る	1.97

表4で示したように、単漢字和語動詞の漢字表記が中国語で語の場合、各語彙の意味的類似性の平均認識度は3以上、すなわち「3 比較的類似している」以上の認識度に達している。しかし、形態素グループにおいては、「濡れる」、「振る」、「別れる」の3語は意味上に類似しているものの、CJLはその意味的類似性を低く認識し、意味的類似性の平均認識度は3未満であり、どれも「3 比較的類似している」と認識されていないことが分かった。形態素グループは語グループほど、日中漢字の意味類似性を均衡に認識していないことが言える。このことは前述の中国語における形態素義の識

別と関係していると考えられる。中国語母語話者は形態素の意味を直接思い出すのではなく、形態素を含む語の意味から形態素の意味を確定する(沈 2014)。「濡れる」の漢字表記である<濡>を含む中国語は<濡湿>、<濡染>などが挙げられるが、どれも日常生活では使用されていない語である。このような語自体の意味も一般的に知られていなければ、語の造語成分である<濡>の意味を識別することも難しいと考えられる。「振る」と「別れる」の漢字表記である<振><別>には、中国語では多義を持つ漢字であり、日本語と同義の字義は他の字義ほどよく使用されていないため、CJLにとって、想起しにくいことが考えられる。これも、日中漢字の意味類似性に影響すると言える。Kellerman (1977) では、言語間類似性について、母語と目標言語にある類似性だけでなく、学習者はいかに母語と目標言語の類似性を認識するかに関わっていると指摘されている。今回の調査結果、日中同形同義形態素について、客観的類似性と知覚的類似性は必ずしも一致していないことも窺える。日中同形形態素が意味的類似性を持っていたとしても、CJL の中国語の形態素に関する知識や認識によって意味的類似性への認識度が異なる可能性が高い。

6. まとめと今後の課題

本稿は単漢字和語動詞の単漢字表記において、CJL の持つ日中漢字の意味的類似性に対する認識について調査を行った。二字漢字語彙と同様に、CJL は単漢字で表記される和語動詞において、日中同形漢字の意味的類似性を認識できることが明らかとなり、CJL は単漢字和語動詞を学習する際、中国語の漢字知識を援用する可能性も示された。さらに、日中同形漢字に対する意味的類似性の認識度は、中国語において語なのか形態素なのかの影響していることも分かった。中国語の漢字が形態素の場合、日中同形漢字が意味上に類似しているものの、CJL は語ほど意味的類似性を認識していない。そのため、単漢字和語動詞の習得を検討する際、中国語における語か形態素かによる違いも習得に影響する要因として考える必要がある。Odlin (2002) は、言語間の構造、語彙に実際に存在する類似性または相違性が言語転移の要因の一つであるが、言語転移が実際に起こるかどうかは学習者の判断によるものであると述べている。今回の調査では、中国語における形態素の識別難易度によって、日中同形漢字に対する意味的類似性の認識度が異なるため、日中漢字の意味が実際に類似していても、CJL が認識する意味的類似性が低くなる可能性がある。このことから、CJL の単漢字和語動詞の習得を検討する際、日中漢字意味の客観的類似性の他に、CJL がこの客観的類似性を認識するかどうかという知覚的類似性も考慮する必要があると考えられる。本稿では、CJL の日中漢字類似性への認識を調査し、日中漢字類似性が単漢字和語動詞の学習に影響する可能性が明らかとなった。今後、日中漢字類似性は単漢字和語動詞の習得にいかに関与しているか、また、CJL の日中漢字類似性への認識の違いによって、習得にもたらす影響も異なるかどうかについて、調査・検討を行いたい。

参考文献

- 相原茂 (2006) 『講談社 日中辞典』初版、講談社。
- 相原茂 (2010) 『講談社中日辞典』第三版、講談社。
- 沖森卓也・笹原宏之(編)(2017) 『漢字』朝倉書店。
- 国際交流基金・日本語国際教育支援協会 (2002) 『日本語能力試験出題基準(改訂版)』
凡人社。
- 小森和子 (2010) 『中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理』、風
間書房。
- 小森和子・三國純子・徐一平・近藤安月子 (2012) 「中国語を第一言語とする日本語
学習者の漢語連語と和語連語の習得—中国語と同じ共起語を用いる場合と用いな
い場合の比較—」 『小出記念日本語教育研究会論集』20、49-61。
- 陳毓敏 (2009) 「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組み
の提案—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して—」 『日本語科学』25、
105-117。
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫 (2011) 『岩波国語辞典』第七版新版、岩波書店。
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局。
- 北京対外経済貿易大学・小学館・北京商務印書館 (2015) 『小学館 日中辞典』第 3
版、小学館。
- 北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 (2004) 『現代中国語総説』(松岡榮志・古川
裕訳)、三省堂。
- 北京商務印書館・小学館・依藤醇・小川文昭・三宅登之 (2002) 『小学館 中日辞典』
第 2 版、小学館。
- 孟盈 (2017) 「中国語を母語とする日本語学習者における語彙習得研究—言語間類似
性の観点から—」 『日本語研究』37、151-164。
- 森山仁美 (2015) 「文脈における和語動詞語彙の産出—中国語母語話者のケース—」
『日本語教育』161、2-14。
- Kellerman, E. (1977). Towards a characterization of the strategy of transfer in second language
learning. *Interlanguage Studies Bulletin*, 2, 58-145.
- Odlin, T. (2002). Language transfer and cross-linguistic studies: Relativism, universalism, and
the native language. In R.B. Kaplan (ed) *The Oxford Handbook of Applied linguistics*, pp.
253-261. Oxford University Press.
- Packard, J. L. (2000). *The Morphology of Chinese: A Linguistic and Cognitive Approach*.
Cambridge University Press.
- 董秀芳 (2004) 《汉语的词库与词法》, 北京大学出版社。
- 沈国威 (2014) 《汉外词汇教学新探索: 汉语词汇体系分析&意义对应字词表・同义类聚

词语表》，关西大学中国语教材研究会。

沈国威（2018）〈汉字的意义及其获得〉《日语研究》10, 60-74.

中国社会科学院语言研究所词典编辑室（2016）《现代汉语词典》第7版，商务印书馆。

参照日本語教科書

刘利国・宫伟（2014）《经典日本语基本教程第一册》，外语教学与研究出版社。

刘利国・宫伟（2014）《新经典日本语基本教程第二册》，外语教学与研究出版社。

刘利国・宫伟（2014）《新经典日本语听力教程第一册》，外语教学与研究出版社。

刘利国・宫伟（2014）《新经典日本语听力教程第二册》，外语教学与研究出版社。

（もう えい・東京都立大学大学院博士後期課程）